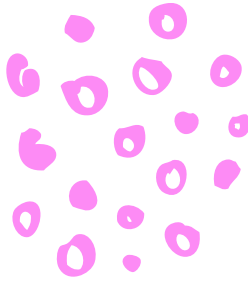


ゆりいか通信

第18号

令和7年10月



「今」から拓く将来設計

秋になると、学校では進学や進級を見据えて進路懇談や三者面談が始まります。子どもたちの将来をどう描いていくかを話すこの時期、教職員や支援者にとっても、子どもの将来を保護者とともに見つめ直す季節かもしれません。多くの進路指導では、「将来の目標を定めて、そこから逆算して今すべきことを考える」という方法が一般的です。しかし不登校の子どもたちの場合、心身のエネルギーの波が大きく、「動けるタイミング」や「興味・関心の芽生え」が一律ではありません。そのため、ゴールから逆算するやり方がうまくはまらず、かえって焦りや無力感を生むこともあります。

そこでこういったお子さんを持つ親御さんに私がお伝えしているのは、「今」を起点に考える視点です。

「今の心身のエネルギー状態」でできることは何か。「今何に対して子どもの心が動くのか」——そこから次の一歩を探していく。その積み重ねが、やがて進路につながって

いきます。

また、子どもの強みだけでなく、家庭や地域の強み、周囲にある「人」「もの」「場」といった資源をどう活かせるかを考えることも大切です。もちろん目標を立ててそれにむかって歩みを進めるという生き方もその子どもに合っています。けれども、「今、どの方向に向かっていこうとしているのか」という「方角」だけを決めて、目標を確定せずに歩みを進めるという生き方も選択肢に入れてみてくださいます。そして、「困った時にはまた一度足を止めて周りを見渡し、『今』を起点として考えてみる」という力をつけてほしいと思っています。この考え方は、先行き不透明で必ずしも思った通りにならないことが多い現代社会においては、生きる力につながる考え方だと感じます。

自分の周りの人々の関わりの中で生まれる「化学反応」をうまく活かしていく——そんな視点を、これからの進路支援に加えていただければと思います。

恩庄 香織

Our Activities



ユースシンポジウム2025

「もやもや」と「止まり木」

この度、ユースシンポジウムでナビゲーターを務めることになりました。市内7か所の青少年活動センターが合同で開催する事業で、今回は北青少年活動センターが主幹、清明高校が会場です。「若者の「しんどさ」をテーマに、安心できる「止まり木」となる場づくりや支援団体とのつながりを目指します。私は分科会「安心できる「止まり木」ってどんなん？」の司会を担当します。詳細は次のサイトをご覧ください。



フラツペ

【保護者・支援者向け】

9月のテーマは「不登校の将来設計」でした。不登校や不調で立ち止まったとき、大切なのは、既存の価値観や目標を一度横に置いてありのままの自分を見つめ直すこと。そして、そのためには教員やユースワーカー、カウンセラー等との対話がとても有効であることを改めて確認しました。

私たち自身も、学校や社会における不登校理解をさらに深め、若者たちにとってよりよい場所が増える必要があると感じています。また、高校生だけでなく大学生世代でもサポート不足が心配される現状にも触れ、社会全体で若者を支えていく重要性を参加者と共有しました。

今後、さまざまな団体や機関とつながりながら、実際のサポートの輪を広げていきたいと思っています。

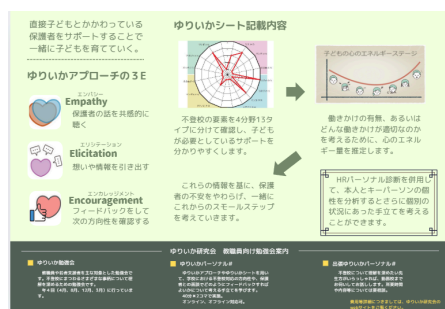
ゆりいかパーソナル#

パンフレットの紹介

この度「ゆりいかパーソナル#」の導入冊子と紹介パンフレットを新たに制作しました。

「ゆりいかパーソナル#」は、教職員が不登校の子どもの理解を深めながら情報を整理し、保護者と一緒に関与の手立てを考えていくための方法を学ぶセッションです。冊子では導入のねらいや基本構造、具体的な使い方、例をまとめ、教職員や関係者の研修資料として活用できるようにしました。

紹介用三つ折りパンフレットでは、学校・家庭での活用可能性を簡潔に紹介しています。今後は、研修や説明の場で広く知っていただき、子どもや家庭に合った支援の実践につなげていく予定です。少しでも学校現場や家庭での対話を支えるきっかけになればと思います。



Upcoming Events

10/19

◆ フラッペ勉強会・交流会

10月は、カリンバを使って楽しみます。
心を癒すひと時を過ごしましょう。

11 / 9

♥ 西陣朝市マルシェ

久しぶりのマルシェ♪ 地域のイベントで、
子どもたちの絵を缶バッジにして渡します。

11/15

♥ わいわいギャザリング

カリンバをさわってみたり、ボードゲームを
したりして過ごしましょう。

11/16

◆ フラッペ勉強会・交流会

「若者に多い消費者トラブル」についてお話
をお伺いします。ぜひご参加ください。



ゆりいか研究会

- ★ 教職員・若者支援者対象
- ◆ 保護者・若者支援者対象
- ♥ 高校生年代の若者対象

いずれも詳細はゆりいか研究会ウェブサイトをご覧ください。

今月のコラム

” 今月は、ゆりいか研究会メンターボランティアによるコラムです。

源義経と京都

大徳寺の北、およそ五百メートルの北山通りと船岡東通りが交差するあたりで牛若丸は生まれたとされる。牛若という町名は今に残っていて、市バスの停留所名も牛若である。「牛若丸誕生井」の石碑が立ち、産湯として使われた井戸が現存し、すぐ横の松の木の根元の胞衣塚には、牛若丸の臍の緒と胎盤が埋められているという。

平治の乱に破れた源義朝の愛妾常盤御前は平家から追われる身となり、牛若、今若、乙若の幼い三児を抱えて大和の国へとさすらいことになるが、赦免されて牛若丸は鞍馬寺に預けられる。鞍馬寺では遮那王と呼ばれるようになる。五条大橋で弁慶と出会ったとされるのは、正確には牛若丸ではなく遮那王である。京都市内の地図を見れば、二条、三条、四条と同間隔であるが、四条と五条の間隔は広いことがわかる。平安時代の五条通りは現在の松原通りであった

のである。従って当時の五条の橋は現在の松原橋にあたる。松原橋から東を眺めると、鴨川をはさんで正面の東山に清水寺があり、その麓が六波羅である。六波羅は平家の京都支配の拠点であり、源氏の牛若丸（遮那王）が女装をしてこの界限に没していた理由が推察されよう。五条の橋での牛若丸と弁慶出合いの史実は疑わしく後の創作であるとされるが、歴史ロマンをかき立ててくれる話ではある。

遮那王は僧となることを拒み、鞍馬山を脱出する。十六歳で元服し義経と名乗るようになる。奥州の商人金売吉次の手引きにより、当時隆盛を誇った奥州平泉へと落ちてゆくことになる。その道中の安全を祈願したのが、智恵光院今出川上がるにある首途（かどで）八幡宮。「源義経奥州首途之地」の石碑が立つ。現在も旅の安全を祈願する神として信仰を集めている。

東山を越えて東国へ向かう途中、平家の武者九人が馬でさしかかり、馬が水を蹴り上げて義経の衣服を汚してしまった。「蹴上」という地名の由来といわれている。怒った義経は平家の九人を斬りすててしまうが、後に輕拳を悔いて九体の石仏を作って供養した。そのうち三体は現在も残っている。

こうして義経は京都と別れることになるけれど、後に源氏の世となり今度は英雄として京都に戻ってくる。しかしそれも束の間、今度は兄の頼朝の勘気を買って、弁慶を従えて再び奥州へと落ちてゆく。源義経にとつて京都はどのような思いの地であったであろうか。

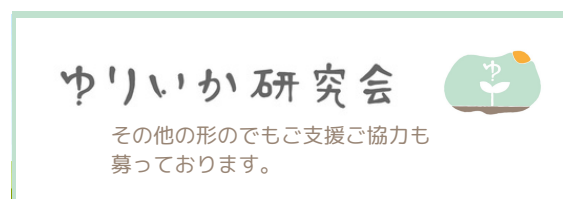
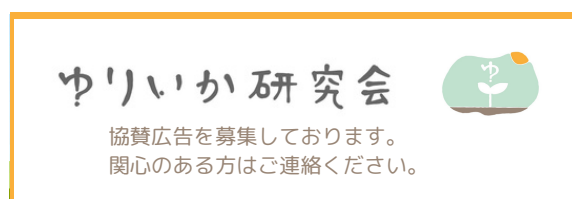
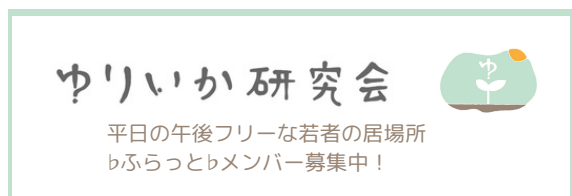
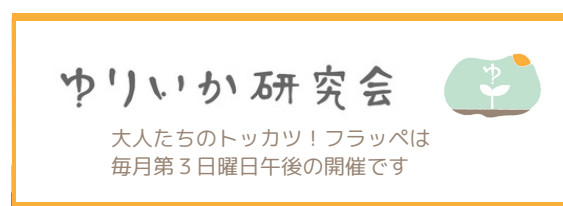
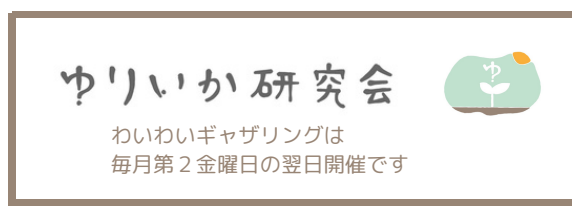
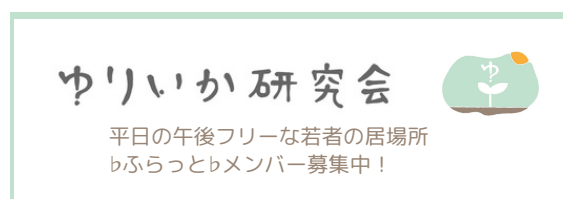
メンターボランティア

田中 博一

Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（3月中旬～下旬、順不同）



多喜誠子さま、杉本さま、宮坂 修平さま、T.OGAWAさま、福本さま他1名

クラウドファンディングおよびその他の形で協賛・寄付をしていただいたみなさまに心より感謝申し上げます。campfire community におきまして引き続きクラウドファンディングを受け付けております。また協賛広告や直接の寄付も受け付けております。関心をお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひお声がけください。



《連続小説》



金鶏鳥

宮美遊

幼少期 (十五)

秋になると、大雨大水の時には、信男は兄の辰郎と二人で蓑笠（みのかさ）を着て水路に行く。田んぼから水を引いて溜める所があり、長田井（ながたい）と呼ばれていた。二人はカエルを捕まえて三メートルくらいのヒモに結び、重石（おもし）を付ける。そばに置いてあった三メートルくらいの田植え用の竹を土手に挿してその中程に、カエルを結んだヒモの反対側を竹に結んだ。そして赤く濁（にご）った水にカエルを投げ込んだ。するとあちらの竹もこちらの竹も動く。ソーッと水面近くに引き寄せてみた。

「兄ちゃん、カニがおる」ズガニが二、三匹ずつ、カエルにぶら下がっている。ズガニは普段水のキレイな所に棲んでいるが、大雨で濁ったから困っていたのだらう。陽（ひ）が傾くまで目の籠（かご）にたくさん獲った。それを兄の辰郎と信男は、棒で担いで帰った。

家に持って帰ると母のオヒサが「まあー、ようけ（たくさん）取れたなあー」と喜んだ。二人は会心の笑みを浮かべた。

夕食には赤く茹（ゆ）で上がったズガニが、食卓に沢山並んだ。弥次郎爺様は「今晚は、ご馳走（ちそう）やのう」と喜んだ。

「ようけ食ったなあー」と辰郎が、山盛りになったカニの殻を見て言う、信男も「満腹や！」と腹に手を当てて、満足していた。それを見た弥之助やオヒサも、ニコニコとしていた。

この小説は、明治・大正・昭和と激動の時代を乗り切った実在の人物をモデルとした小説です。先行き不透明な現代を生きるヒントが得られるような気がします。ぜひこれから楽しんでご一読ください

絵：落葉画廊

編集後記

先日、ゆりいか研究会とは別のつながりで、高齢者の方々を対象としたカリンバ体験会を行いました。最初は「私には楽器は難しくて」と遠慮されていた方が、休憩時間まで夢中で練習されている姿に、思わず頬がほころびました。音を鳴らすたびに表情が柔らかくなり、空気はゆるんでいくようでした。音楽には、年齢を越えて心を動かす力があるのだなあと実感しました。芸術の秋、上手に弾くことにとらわれすぎず、音を楽しむ気持ちを大切にしたいと思います。（恩庄か）

おしらせ

★11月16日のフラッペでは「保護者・支援者が知っておきたい 若者に多い消費者トラブル」というテーマで、京都府消費生活安全センターから講師の先生をお招きしてお話をお伺いします。ぜひご予定ください。

★令和7年9月号までのゆりいか通信をウェブサイトに掲載しました。関心ありの方にご紹介ください。